

全般季節予報支援資料 1か月予報

2026年7月23日

予報期間：7月25日～8月24日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

東・西日本では期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。北日本では2週目は気温がかなり高くなる可能性があります。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
東日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
西日本では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	20:30:50	30:40:30 30:40:30	30:40:30 30:40:30	
東日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	30:30:40 30:40:30	40:30:30 30:40:30	
西日本	日本海側 太平洋側	10:20:70	40:30:30 40:30:30	20:40:40 20:40:40	
沖縄・奄美		20:30:50	40:30:30	30:30:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	20:50:30	10:30:60	20:30:50
東日本	10:40:50	10:20:70	10:40:50
西日本	10:20:70	10:10:80	10:40:50
沖縄・奄美	20:40:40	10:40:50	20:30:50

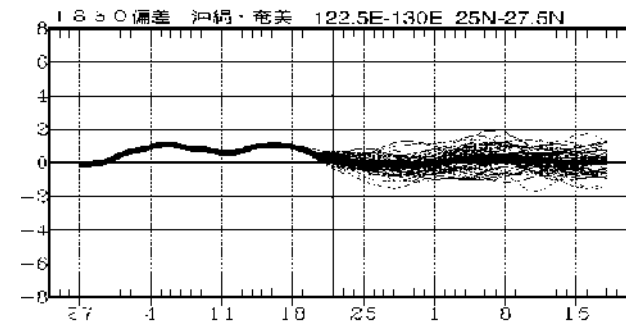
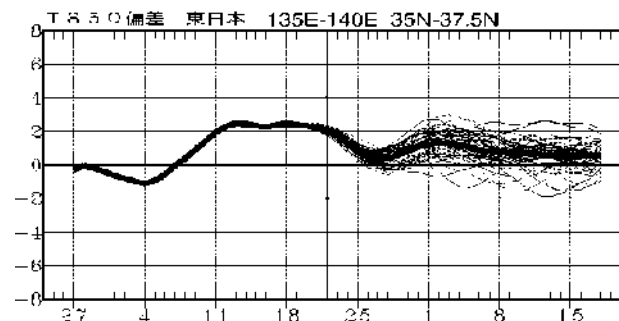
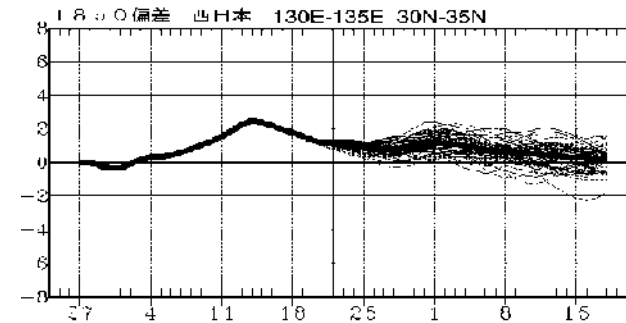
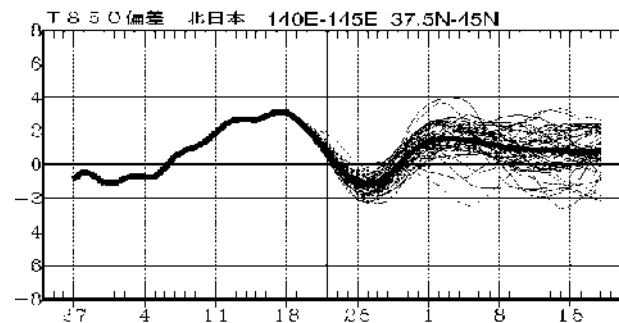
全般1か月予報のポイント

- ・全国的に暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、東・西日本では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。北日本では、2週目は気温がかなり高くなる可能性があります。
- ・西日本では、期間の前半は高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の日照時間は平年並か多いでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(7/25～7/31)	2週目(8/1～8/7)	3～4週目(8/8～8/21)
想定される天候(気温)	北日本は並温、東・西日本は高温で、かなり高くなる見込み。沖縄・奄美は高温傾向。	全国で高温で、北・東・西日本はかなり高くなる見込み。	全国で高温。
根拠	東・西日本は暖かい空気に覆われやすい。沖縄・奄美は暖かい空気にやや覆われやすい(P12,P13参照)。	全国的に暖かい空気に覆われやすい(P12,P13参照)。	全国的に暖かい空気に覆われやすい(P12,P13参照)。

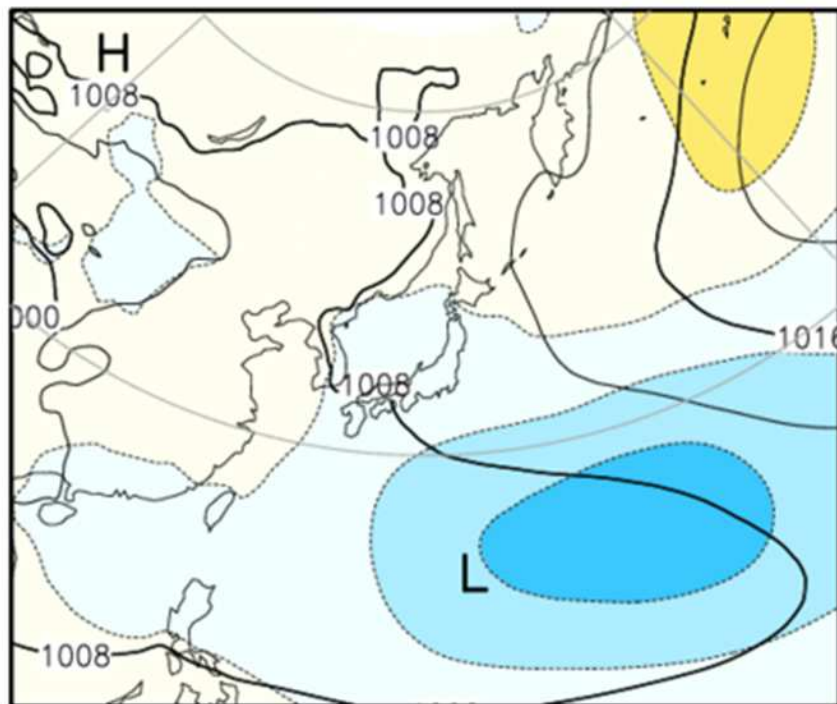
850hPa気温 偏差時系列



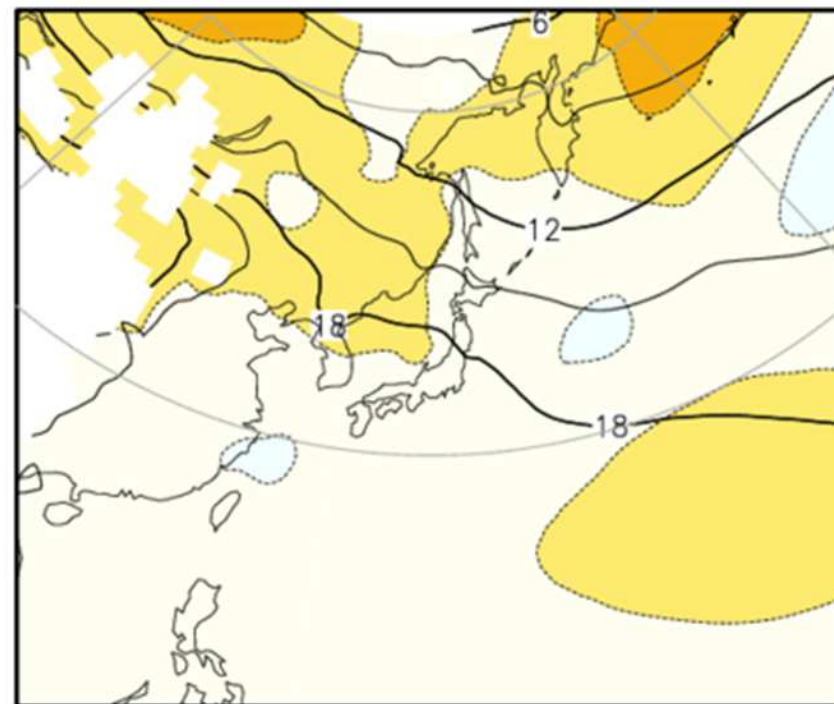
各週における天候のポイント(天気)

	1週目(7/25～7/31)	2週目(8/1～8/7)	3～4週目(8/8～8/21)
想定される 天候 (天気)	北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 東日本日本海側では、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。 東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 西日本と沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。	北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
根拠	東日本日本海側では低気圧や前線の影響を受けやすいため、やや多雨寡照傾向。 西日本と沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われやすいため、やや少雨多照傾向(P10-P13参照)。	おおむね平年と同様の天候だが、東日本日本海側と西日本では高気圧にやや覆われやすいため、やや多照(P10-P13参照)。	おおむね平年と同様の天候(P10-P13参照)。

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

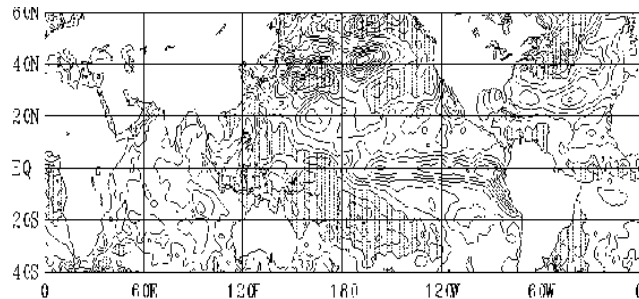


1か月平均の海面気圧(左図)は、日本の南に低気圧が予測されていて、その北の日本付近は相対的に気圧が高いでしょう。期間の前半は西日本を中心に高気圧に覆われやすいでしょう。

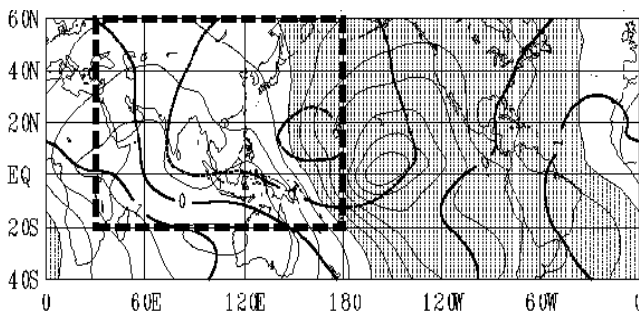
上空約1500mの気温(右図)は、日本付近は平年より高く、全国的に暖かい空気に覆われやすいでしょう。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

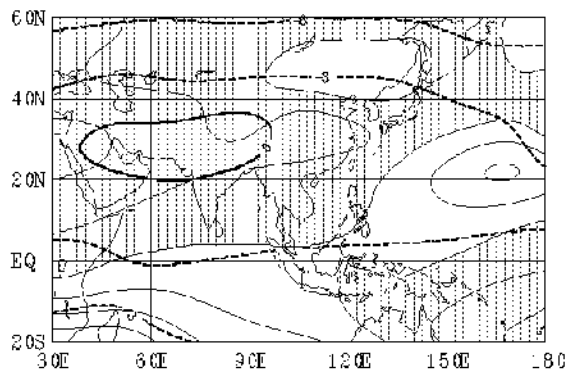
SST偏差



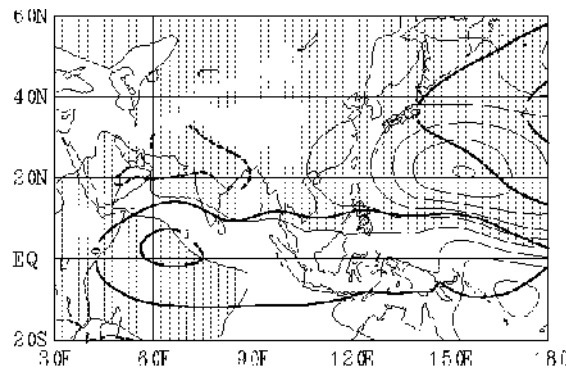
200hPa速度ポテンシャル



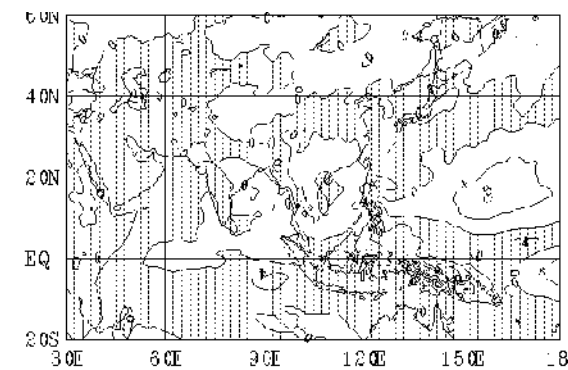
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量偏差



SST偏差は、太平洋熱帯域では中・東部で正偏差、西部で負偏差。

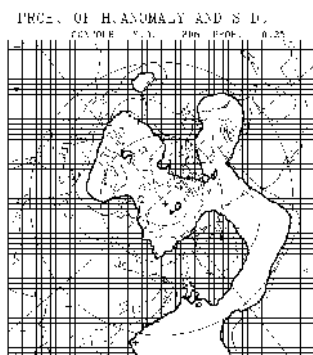
200hPa速度ポテンシャルは、熱帯の対流活動に対応して太平洋熱帯域の中部を中心に上層発散偏差、インド洋からインドネシア付近にかけてを中心に上層収束偏差。

200hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、日付変更線の西を中心に高気圧性循環偏差。

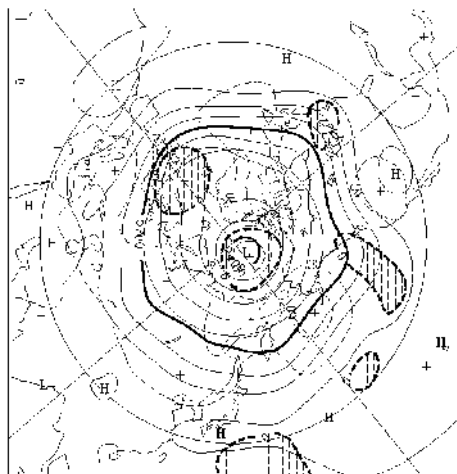
850hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、日本の南東を中心に低気圧性循環偏差。

降水量は、日付変更線の西を中心に多雨偏差。インドネシア付近で少雨偏差。

気象庁
Japan Meteorological Agency

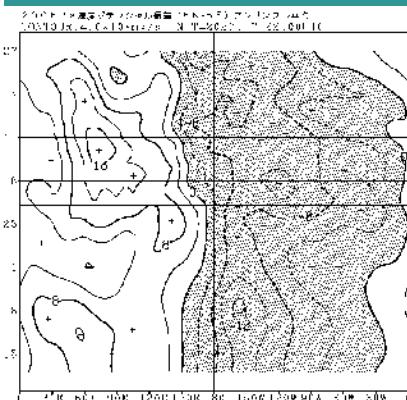


500hPa高度



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



200hPa速度ポテンシャルは、期間を通して太平洋熱帯域の中部を中心に上層発散偏差。1、2週目はインドネシア付近を中心に上層収束偏差。3～4週目はインド洋西部を中心に上層収束偏差。

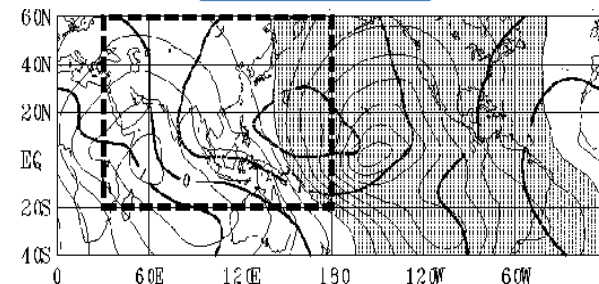
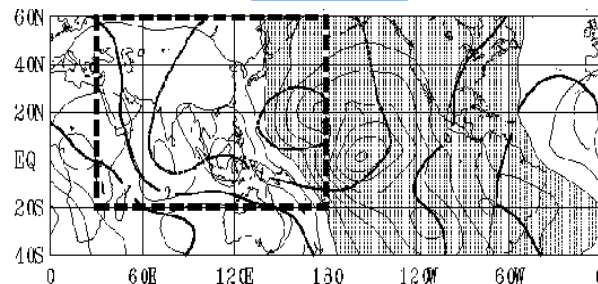
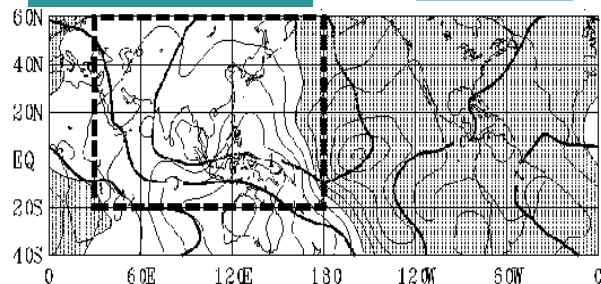
降水量は、期間を通して日付変更線の西を中心に多雨偏差。インドネシア付近で少雨偏差。1週目は南シナ海で多雨偏差。

200hPa速度ポテンシャル

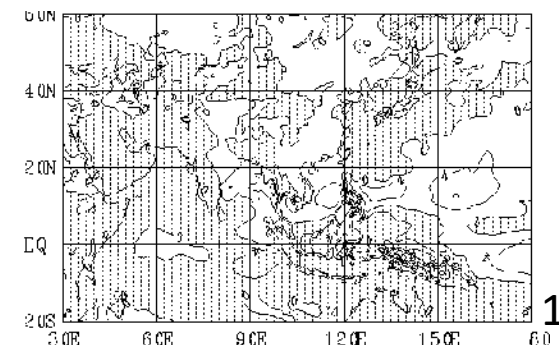
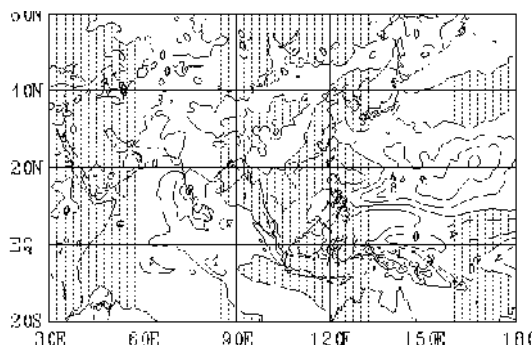
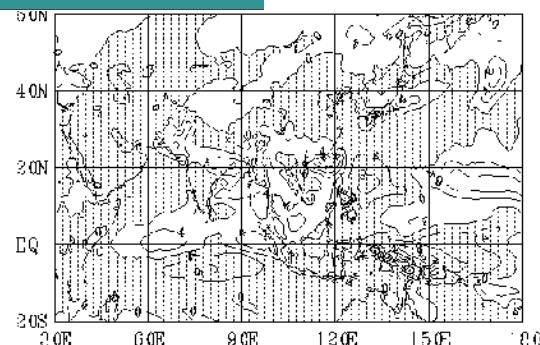
1週目

2週目

3～4週目



降水量偏差

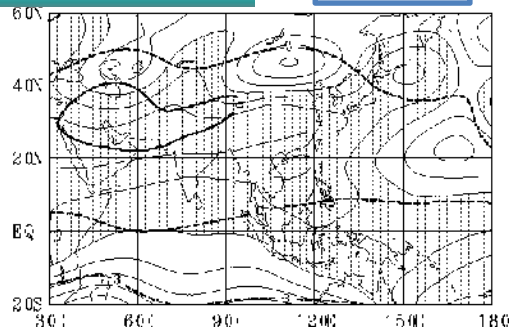


予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

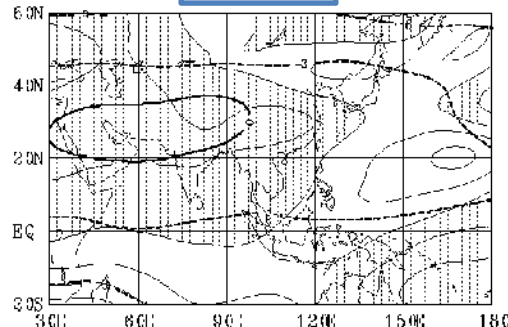
200hPa流線関数は、期間を通して日付変更線の西を中心に高気圧性循環偏差。
1週目は華北付近を中心に高気圧性循環偏差、日本の東を中心に低気圧性循環偏差。
2週目は華南付近を中心に低気圧性循環偏差、中国東北区付近を中心に高気圧性循環偏差。
3～4週目は華北付近を中心に低気圧性循環偏差、沿海州付近を中心に高気圧性循環偏差。
850hPa流線関数は、1週目は東シナ海を中心に高気圧性循環偏差。2週目以降は日本の南東を中心に低気圧性循環偏差。

200hPa流線関数

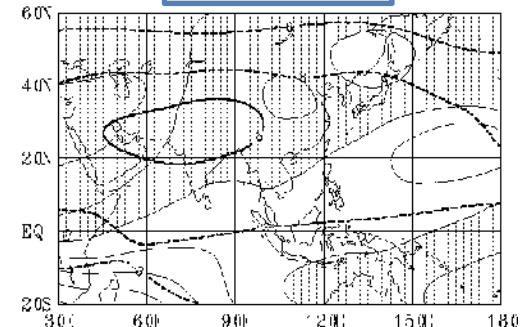
1週目



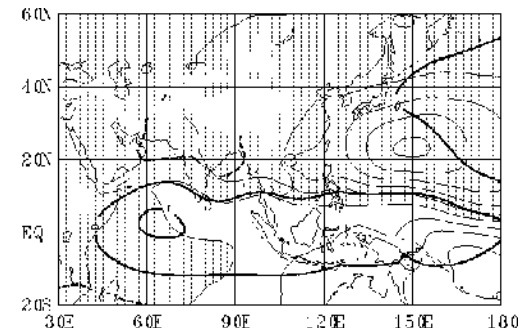
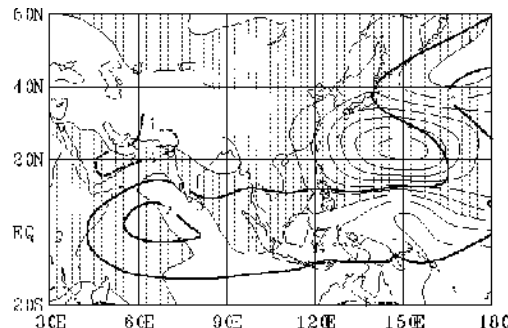
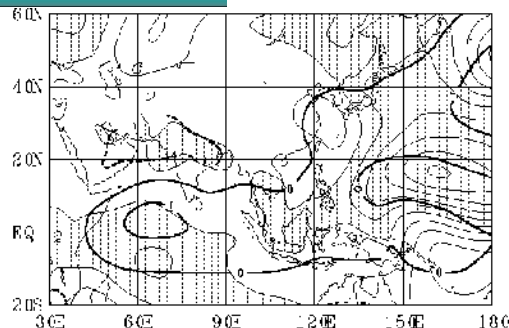
2週目



3～4週目



850hPa流線関数

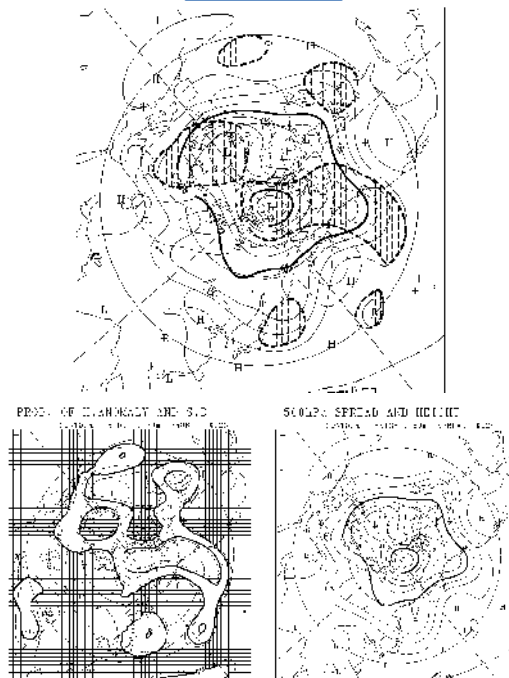


予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

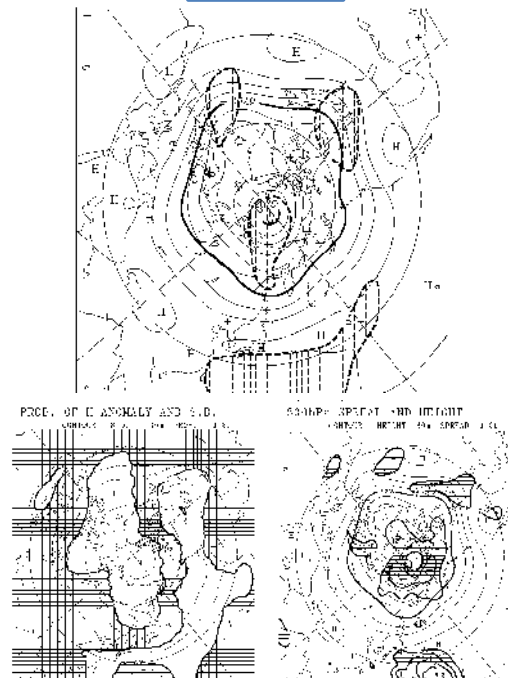
500hPa高度は、1週目は華北付近を中心に正偏差、日本の東は負偏差。2週目以降は北・東・西日本はおおむね正偏差、日本の南は負偏差。
なお、2週目以降は日本の南東、2週目はベーリング海付近、3～4週目はカムチャツカ半島付近でスプレッドが大きく、寒帯前線ジェット気流沿いの波列と熱帯じょう乱の予測は不確実性が高い。

500hPa高度

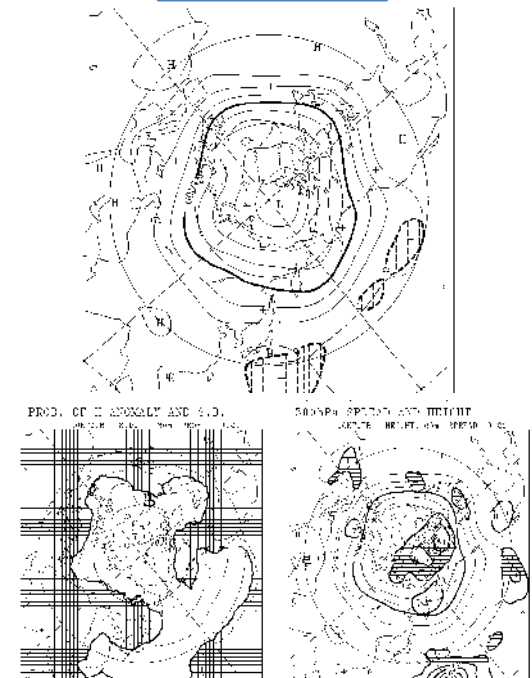
1週目



2週目



3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、1週目は北日本と沖縄・奄美で負偏差、東・西日本は正偏差。2週目以降は北日本を中心に全国的に正偏差。

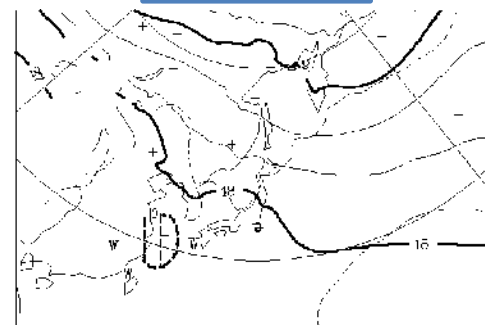
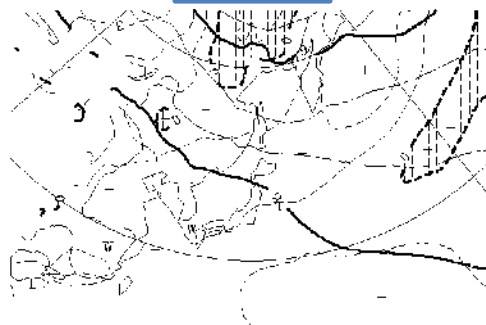
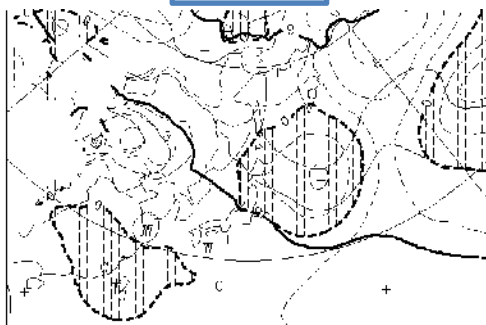
海面気圧は、1週目は西日本と沖縄・奄美は正偏差で、太平洋高気圧に覆われやすい。一方、日本海から東日本にかけて負偏差で、東日本日本海側では低気圧や前線の影響を受けやすい。2週目は日本の南に低気圧が予測されていて、その北の日本付近は相対的に気圧が高く、東日本日本海側と西日本では高気圧にやや覆われやすい。3～4週目は本州以南は負偏差で、湿った空気の影響を受ける可能性があるが、不確実性が大きいいため、おおむね平年の天候で考える。

1週目

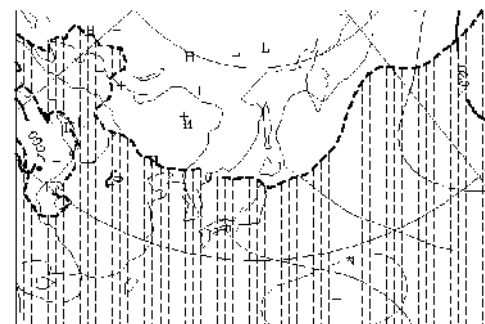
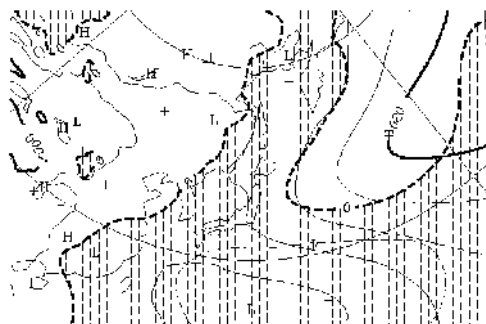
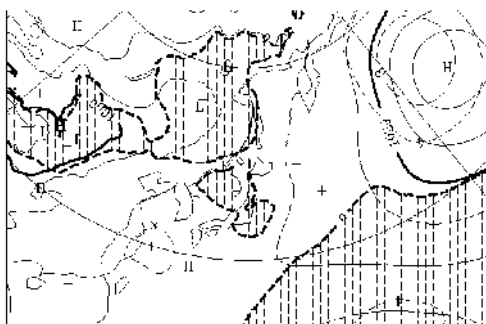
2週目

3～4週目

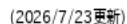
850hPa気温



海面気圧



気象庁
Japan Meteorological Agency



14